

第4回庁舎等建設に関する協議会

日 時 令和4年6月17日（金） 15：11～16：54

場 所 市役所本庁舎第一会議室

参加者

市議会：

座 長：五十嵐京子、副座長：村山ひでき

清水がく、吹春やすたか、岸田正義、沖浦あつし、白井亨、水谷たかこ、古畑俊男、坂井えつ子、遠藤百合子、湯沢綾子、鈴木成夫、安田けいこ、片山かおる、たゆ久貴、渡辺ふき子、小林正樹、宮下誠、斎藤康夫、渡辺大三、水上洋志、森戸よう子（議席番号順、敬称略）

市：

副座長：藤本庁舎建設等担当部長

西岡市長、小澤副市長、前島庁舎建設等担当課長、後藤公共施設マネジメント推進担当課長、伊藤福祉会館等担当課長、山崎建築営繕課長

事務局：

福井企画政策課主査、奥企画政策課主査、郷古企画政策課主査、小林議会事務局次長、安藤議事係主任
傍聴者 2人

◎五十嵐座長 皆さんこんにちは、第4回庁舎等建設に関する協議会を開会いたします。まずはじめに、配布資料がありますので、事務局の方からお願いいたします。担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 配布物でございます。本日の次第と建設物価建築費指数2022年5月分が資料となっております。ご協議いただく前に前回からの対応状況について、口頭で4点ほどご報告させていただきます。

初めに1点目が、前回の協議会でご指摘いただきました、市ホームページでの協議会へのアクセスし難いというご指摘につきましては、市ホームページの新庁舎関連ページのトップに庁舎等建設に関する協議会のリンクを張る改善をさせていただきました。

2点目が、第1回の会議録をアップしたので、ご報告いたします。2回目以降の会議録も順次アップさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

3点目が、前回の協議会で協議されました意見・提案シートについてです。本日より傍聴席入口に設置するとともに、昨日からホームページにてお知らせし、ご意見を提出できるようにさせていただいております。本協議会開催1週間前までに届いたものは参考配布させていただきます。

4点目が、第2回に提出した資料2、3のメリット・デメリットとスケジュールの資料ですが、提出した資料について様々ご意見をいただいているところですが、改めていただいたご意見を反映したものを資料として作成のうえ提出させていただくために調整させていただいておりますが、資料としてまだ整って

おりませんので、今しばらく調整のお時間を頂戴いたしたく、本日提出しておりません。引き続き資料提出に向け、調整させていただきますので、ご容赦いただきたく申し上げます。

◎五十嵐座長 配布資料等については何かご意見ございますか。これでご了解いただいたということでしょうか。では、そのように進めさせていただきます。

それでは、今日の協議項目でございますが、前回後半で耐震構造について皆さんのご意見を伺いましたが、耐震構造については現時点で、まず福祉会館を免震に変更することについては、費用としては約3億から4億くらい追加になるだろうということと、それによって実施設計の修正みたいな形で対応はできることが確認されております。前回の質疑の様子を見ていますと、耐震構造に関しましては、コストですとか他の部分の設計と絡めて議論となるために大変論点が分かりにくくなっておりますので、いったん今申し上げましたことを共通認識したということの確認をしたうえで、ここは保留をさせていただいて、次の項目、DXとICT対策に移りたいと思いますので、よろしく願いいたします。その後時間があれば、地下駐車場を中止という提案に対する意見交換をしたいと思いますが、まずはDXとICT対策に対する意見を述べていただきたいと思いますので、そこから始めたいと思います。ご意見がある方はどうぞ、手を挙げておっしゃってください。

実は先ほど庁舎公共施設マネジメント特別委員会で、各課の保管文書の量についてという資料が出てきたものですから、文書のことについては特別委員会で質疑を行いました。もしこれも共通認識にした方がいいかなということであれば、委員でない方もいらっしゃるの、改めて配布させていただいてもいいかなと思いますが、よろしいですか。どうでしょう。準備をさせますので少しお待ちいただければと思います。保管文書が7割削減目標に掲げて進めてきたというのがあるんですが、現状でまだその半分ぐらいが到達点ということで、なかなか7割までは行ってない。そういう中でこれからDXを進めていく中で、7割に向けてやっていきたいというのが、まとめるとそういうような質疑がされてきたということでございます。実施設計の土台となっている一つの条件で、7割減という目標があったということがこれまでも特別委員会で説明されておりましたので。はい、片山さん。

◎片山議員 DXなんですが、さっきの庁舎特別委員会で結構いろいろと細かい議論があったなと思っておりまので、それを何らかこう把握したうえでの議論の進め方の方が効率的なのかなと思うんですが。委員以外の方には何かユーチューブか何かで後で見てもらおうとかですね、まとめたものをお知らせしたうえでの方がよいのかなというふうに思ったりいたします。

◎五十嵐座長 はい、斎藤さん。

◎斎藤議員 設計上の条件として現存の文書を減らして3割にする設定条件ということなんですが、文書というのは、要するにDX、ICTによって減らすということなのか、本来の保存すべき文書以外にそういう文書があるんで、それを廃棄をするということなのか、すみません、そもそもどういう設計条件になっているのか教えてください。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 設計条件とすれば、7割削減した部分の面積を執務環境調査というので作成して、それが4,792㎡の執務スペースという形で始まっているんですが、基本設計の設計者の方から提案が

あって、ユニバーサルレイアウトといって、今、課とか係が島になってるんですけども、それを一列に並べるようなレイアウトをするとスペース的な削減ができるという提案があって、その提案が基本設計のときに 3,900 m²の執務スペースという形になってたんですね。いずれにしても 70%の削減というのは目標にしなくてはいけないというところで、執務室のスペースはそれを考えたうえの設計になっているという形です。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 削減するっていうのは、量を削減するのか、スペースを削減するのかということと、その削減するという意味が、いらぬ文書を捨てるっていうことなのか、本来必要だけれども保存年限までは ICT や DX を活用すれば減らすことができるのかと。

◎五十嵐座長 はい、庁舎担当。

◎前島庁舎建設等担当課長 総務課の方のファイリングシステムの再構築の関係になってしまうんですが、そちらの方では、保存年限の見直しとか、ペーパーレス化とかそういったものをこれからやっていくような、そういうところに手を付けていくような提案が、ファイリングの再構築の最後のところで出てたと思いますので、そういったところをこれからやっていくという形になろうかと思えます。すみません、詳細について今手元にないので、申し訳ないですけど。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 詳細は分かりませんが、現存する文書の今あるスペースの 30%ですむという形で積んでいるということでもいいですか、大雑把にざっとね。はい了解です。

◎五十嵐座長 ということで、DX は、特に保存文書に関しては片山さんが提案されたとおりに、いったん今日の午前中から午後早い段階にかけての質疑を他の方も聞いていただくか何かして、共通認識になってから質疑をいたしましょうか。はい、小林さん。

◎小林議員 保存文書の話っていうのは非常に重要な話だと思うんですが、それは庁舎特別委員会とか総務とか行革とか、そういったところで語られるのはいいと思うんですけど、これ建設に入れなかった要件じゃないですよ。7割削減して3割にするってことは、当然やらしてもらわなきゃいけないことで、その進捗確認するのはここじゃないですよ。だからここでやるべきことをやった方がいい。DX って、建設着工に向けて何が課題だったのか、提案された方がもう 1 回おっしゃっていただいて議論した方がいいと思うんですけど。

◎五十嵐座長 はい、渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 今小林さん言われたとおりでですね。書類の文書量の件に関しては、一応注目はしているんですけども、進捗状況の確認等に関しては、それぞれ所管の委員会などで適切にやっていただきたいというふうに思っております。

それで DX ということで、今回のこの協議会の主題となっている庁舎建設のとりわけコストダウンのところ、今後の DX の展開ということをどういうふうにするのか効果が発揮してくるのかということについては、様々な専門機関が様々な試算をしてみたり、いろんなものが資料として公表されております。今私の手元にあるのは日本総研ってご存知だと思うんですけど、日本総研の方からサイトなどで、庁舎建設で

DX やった場合の効果ということで一定の記述があります。少し紹介しますと、まず紙資料が不要となると、書庫スペースも大幅に削減でき、建物の延床面積が減るため、建設費や維持管理費用の圧縮が期待される。また、テレワークが導入できている場合は、すべての職員が一堂に会して勤務する必要は少なく、職員の自宅や自治体内に点在する遊休の公共施設、民間施設を分散拠点として活用することで、さらに庁舎自体の必要面積を圧縮することができる。こうした分散型庁舎は将来の人口減少に合わせた段階的な規模縮小も容易である。加えて、分散型庁舎というハード面の DX は、サービスの提供を拠点が分散立地することになり、インターネットが利用できない市民の申請相談サービスへのアクセシビリティ向上というソフト面の改善にも寄与すると考えられる。さらに副次的な効果として、遊休ストックに自治体が入居することで、当該遊休ストックの価値や周辺の地価が向上することも期待される、等々という記述があります。どういうことを言ってるかということ、単なる紙資源の削減ということだけではなく、DX という技術を活用することによって、例えばこの間私がいろいろ言ってきた中で保健センターの 2,300 m² の床面積がございませう。本庁舎の床面積は 2,707 m² だと思っているんですが、この本庁舎の 2,700 っていうのは、実は執務室として使われていない地下の卓球場でしたっけ、みたいなところまで含めた面積なんですかね。この地下の執務室として使われてないところを除外すると、実は保健センターの床面積っていうのは、本庁舎の執務室として使っているところの面積よりも広い面積が、福社会館の完成に伴って生み出されるわけです。さっき日本総研さんの文章を紹介しましたが、DX 技術を活用することによって、今度の蛇の目にできる庁舎と保健センターに分散型庁舎とでも言うんでしょうか、そこを結ぶことによって、一つは蛇の目の庁舎建設のまず床面積が削減ができるということと、単なる削減の効果は、建設費の削減にとどまらず、維持管理費等が将来にわたって縮減できるということや、大規模修繕を行うときのコスト減にもつながってくるわけなんですかね。つまり、コストの削減は単なる一過性のインシヤルコストでだけ発揮されるのではなく、ランニングコストにおいても非常に効果的であると、削減に向けてと。こういうことに関しては、DX の議論をする中で、是非積極的に皆さんと意見交換してみたいテーマだなというふうに思っております。

それで私、実はアナログなんで物差しで測ったんで正確な数字はまた別途紹介したいんですが、お隣の西東京市ですけれども、西東京市っていうのは、合併したのがもうかなり前ですよ。ところがずっと保谷庁舎と田無庁舎という 2 つの庁舎をそれぞれにセクションを分散して、2 つの庁舎を回し続けてきたんですね。DX がない段階ですよ。ところがそれでじゃあ西東京の行政が立ち行かなくなると聞かないし、不便はあったんでしょう、DX がない中でのあれでしたから、そういうことをやってこられて。実は保谷庁舎と田無庁舎の距離がどのくらい離れているかっていうと、蛇の目と保健センターの距離よりもさらに離れてるんですよ。だからそういう中でも相当な期間、すぐに大きな庁舎を建てることなく、いろいろと不便があったかもしれないけど、2 つの庁舎を回して来たのが西東京市さんで、今日午前中別件で行ってたんですけど、実際いろいろ担当にお話を聞いてみてもいいかなとも思ったりもしているところです。

ここで問題提起したいのは、DX の話しは多方面に及ぶんですけども、とりわけコストっていうことに主眼を置いた議論をすると、保健センターの 2,300 m²、これは本庁舎の 1 階より上の地下を含まない面

積以上の面積がそこに生み出されると。一部を例えば教育委員会がなんかやっていると聞いておりますが、それはせいぜい 500 m²ぐらいでしょう。だから相当の床面積がある。庁舎が今ここにあるわけですよ、本庁舎も第二庁舎も。これが相当東の方に移動することになるので、貫井北町とか貫井南町の方々にしてみると、庁舎が遠のくということになるんですが、保健センターにもし仮に庁舎の機能を入れれば、さっきは日本総研さんの文章を紹介しましたが、インターネットなどを使って手続きができない人も比較的近くに庁舎のランチがあれば、そこに行っているいろいろできることがあるわけですね。そこに届けばいいとか、そこに行ってできるとか。となると、アクセシビリティの関係からいっても、とりわけ小金井市の西側の貫井南町、貫井北町の方々にとっては、その部分のまるまるすべてがなくなっちゃうよりも、そういうランチが残っている方が便利がよいということからいっても、全体的に庁舎が東の方に行くということから考えると、こういった西側にお住まいの方々の利便ということを考えても、割方リーズナブル。保健センターってご存知のように、貫井北町の中でもかなり南の方、もう貫井南町から入ってきてますよね、3丁目から、という所に立地しているので、四小の学区域ということになるんですが、こういうことは是非前向きに検討されてしかるべきじゃないかということです。しかもコストダウンにはかなり資するだろうということで、単なる建設費のコストダウンだけでなく、長期的なランニングコストのコストダウンも含めてよく見定めて、是非積極的に DX という前提で活かしたい素材ではないかなと思っておりますので、この場で意見としては開陳しておきたいと思っております。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 今渡辺さんの提案は傾聴に値するところなんですが、それ DX と別ですよ。現状のスペースを 30%で設計しているよという状況の中で、そのうちの例えば半分をそっちに持っていけるというのであれば、DX と何も関係ない物理的なスペースの話と、それから出先機関、分庁舎、窓口業務をやるということであれば、そちらが必要とすれば、東側にも当然必要になってくるし、本体の建物だけの、本庁舎だけの観点ではなくなってくるということですから、それを含めて協議していかなければいけないと。かなり広範囲なんで、幅広い議論になっていくだろうなと思っております。

◎五十嵐座長 はい、渡辺さん。

◎渡辺大三議員 DX がそれにどう結びついてくるか、斎藤さんからも一定ご発言あったんですが、新しいことも含めてどういうことで踏み込めるのかなということで、先ほど紹介した文章っていうのは、DX という技術を使うと、これまで分散庁舎で不便なイメージがあったじゃないですか、そうじゃないよと。分散庁舎というものが DX で 2つの庁舎がつながれることによって、その部分のデメリットが思いっきり減るということが書かれているのかなということ。実はですね、先ほどの記述の中にも先がずっと続いているんですけど、さっきもしデメリットがあるとすると、保健センターの建物が民間の建物だと賃料が発生するというデメリットが出るんですと書いてあるんですよ、その先を読んでいくと。ところがご存知のように保健センターというのは、小金井市の所有の庁舎でございますから、賃料発生しないということになるんだろうというふうに思っているんで、そういう観点からも、逆に言うと分散させる、民間を借りるデメリットの、第二庁舎のことみたいなところですから、ああいうデメリットが生じない中でコストダウン策としては優れているだろうと見ているので、DX の中でどれだけ議論するかってなるんですが、DX があるか

らそういうことがやりやすくなるよねと。従来から言うと、ネガティブなイメージがあった分散庁舎が全然そんなことなくなるでしょっていうそういう論立てになっているので、そこはこの中でもある程度視野に入れても、射程には入れてもいい領域かなと一応思っています。いろんな角度から議論してみてもいいかなと思っています。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 DXの話なんですけど、うちの会派としても一応書きましたから、開陳しておきます。どこに書いたかというところでは設計のところで書きました。うちは設計のところでは、これまでは早く建てるために設計についてやむなしと考えてきたと。現在もその基本の考え方には変わりはないが、そのうえで改めて設計について意見を言うとしたらという3つのうちの1つに、自治体DXを徹底的に推進したらどうかということを書かせていただきました。ここで書いたことは、行かなくていい庁舎としてのサービス設計をするってということ、可能な限りのリモートワーク推進で業務面積を減らす等検討したらどうか、こういうことを書いてるんですよね。どちらかというと、大きな理想の話しかないとこのように思っています。

ただ行革特別委員会ではDXっていうのは一つの大きなテーマになっていると思いますが、議論を聞いている限りでは、なかなか小金井市として、今年度からDXの担当をつけていただきました、要望しましたからね、それはそれでありがたいんですが、人員体制も脆弱でなかなか市としても積極的にそんなに抜本的にこれを進めていこうっていうそういう温度も見られないし、実質的な動きも見られないというのが現状であります。だからここでDXについては書いたし、議論すべきだと思うんですけど、そもそもの市としてのDXについての動きがなかなかないので、ここで議論するのも限界があるのかなというふうには正直思っているところでもあります。DX担当も一応控えてるんですかね。いないの、いないんだったら議論してもしょうがないんですよね。意見言うだけだったらいいと思うんですけどね。そういう前提で、別に呼んでくれってつもりじゃないので、いないんだったら今日は別に結構です。だから何を言いたいかというと、ICT整備方針ありますよね。ICT整備方針は平成31年4月に作りましたが、これまだDXの話しが出てないときだったんですよね。その前提でずっと作ってきて、整備方針ができましたと。これあくまでICTなんですよ。ICTってあくまでデジタル化なんですよ。要するにデジタルを使って便利にしますっていうのがICT化ですけど、DXっていうのは変革なんですよ。業務を変革しないとイケないということと、サービス設計をそもそも変えないとイケないということなんですよ。こういう根本的なところを変えるっていうのは結構大きな話しですから、本来であれば、この国の流れそして自治体でもDXを求められているという流れからすると、抜本的に例えばいついつまでにはこういうふうなことをやるんだみたいなことをしても、市としてもちゃんと明確にしたうえで、それに合う庁舎になっているかという、その差が問題ですから、それを埋める議論を多分今しないといけないと思うんですよね。本来それをやるべきだと思います。私はそう思っています。ただ、その大元のところがないので、示されていないので、議論しようがないっていうのが現状かなと思います。

とは言っても、もし設計の今の項目の中で一応検討項目としてあるわけですから、できる限りのいろんな意見とか、こうあるべきじゃないかみたいなことは出した方がいいと思うので、建設的には、意見として申し上げておきますが、いずれにしても市民のいろんな申請については、今後デジタル化していくって

ということがもう明確に分かっているわけですから、それに準じた働き方になっているかということと、窓口のサービス設計になっているかということについてはしっかり議論した方が私はいいと思います。

もう一つはリモートワークですね。三層分離の構造があって、なかなかこれまではそういったことができなかつたんですけど、コロナがあって、一応総務省としても三層分離の中でもいろいろ工夫してできることをやっていこうみたいな流れにはなってきて、僕も詳細は分かんないんで、三層分離はどうなっていくかっていうところも、もしかしたら一回勉強会やった方がいいと本当は思ってるんですけど。とは言っても、リモートワークが全くできないわけじゃなくて、僕は挑戦した方がいいと思うんですよね。挑戦して何か法的に問題があるんだったら国へいろいろ具申したらいいじゃないですか。だから徹底してやるっていう意思があるかどうかというところなんですね。徹底してやる意思があるんだったら、そういう変革をやって、例えば全員が毎日庁舎に来て働かなくてもいいかもしれない。それを本当に追い求めるつもりがあるんですかっていうことなんですよ、市にとって。私はすみませんが、市にその意思が感じられないので、この議論しても無駄だと思ってるんですけど、今問題となっているのは、資材も高騰して市の財政状況もあるし、今こういう議会の雰囲気ですから、コスト削減をなんとかやらないといけない。何年後にはこうなりましょう、これ徹底的にやりましょうよ。市としてもじゃあ毎日全職員が同じ時間帯に庁舎に来ないといけないかというところから既成概念を覆すような議論をしっかりやらないといけないと思うんですよね。そういうこと多分求められていると思います。それが市としてやる気があるのかどうかというのを聞きたいんですよね。なんか絵空事言ってるように聞こえますけども、やる気があるんだったら、理想通りじゃないにしてもできることあると思います。やる気がないんだったら、この議論しても無駄です。

◎五十嵐座長 はい、斎藤さん。

◎斎藤議員 この協議会っていうのは、私の認識なんですけれども、もう既に実施設計までできている庁舎建設計画を見直すべきところがあるんだという方々がいらっしゃってできている協議会なんですよね。であれば見直す内容について、こういう状況でこうだから、例えば面積を減らすだろうと、例えばその部分が変わるだろうという提案なら分かるんですけども、これから協議して、市としてこれから考えていけよとか、自分たちもこれから考えていけよとか、庁舎建設のゼロからスタートの段階でどんな庁舎をつくるかということであれば、それは十分そういうことになるんだろうと思うんですが、現状の置かれている状況の中で、またゼロまで戻って協議していくのかっていう話しですよ、先ほど渡辺さんの話しは。私の中ではDXと文書保管のことが私も含めてちょっと曖昧になっているところなんです、電子データは全部クラウド、要するに庁内で保管するのではなくてサーバー持たずにクラウドでやるわけですよ。それで70%多分削減ができて30%のスペースでいいということであれば、そのスペースは30%のうち、そのうちの半分はどっか別でも大丈夫だということであれば、その根拠を示してその部分の面積を減らすべきだとかいうのであるなら分かるんですけども、今後考えていかなきゃならないから考えましょうは、この協議会の設置している目的とは私はちょっと違うんじゃないかなというふうに思っています。

◎五十嵐座長 清水さん。

◎清水議員 私も先ほどの委員会でも言ったんですけども、多分そもそも DX と庁舎建設っていうのは本来あんまり関係ないことだと、個人の考えですけど私は思っていて、大三さんがおっしゃった DX が進んだから結果多分副産物としてスペースが減るとかそういうのがあるんですけども、ここから DX の議論を始めて、それに見合った庁舎をっていうことになったら、それこそ何年後になるのかなっていうのがあって、何回も言うんですけど、この会議は 1 回お尻を決めて 10 月で決めていって、今日配られた資料によれば、建設物価建築費指数は対前月で 0.9%もう既に上昇、対前年同月で 7.3%上昇。こんな数字を見て、さあこれからゼロから検討だなんていうのは、私たちとしてはまったく考えられもしないので、やっぱり一回、もう私前回も言ったんだけど、新しい提案も大事だけどどっかで線を引かないと、どんだけ切りがない議論にしかならなくて、この協議会の意味がまったくなくなってしまう。議論は大事だけど、意味が全くないんじゃないかなっていうふうに思っているし、今日の進め方だけ見ていると、もう今日で 4 回目か、本当に終わんのかなって不安にしかないんですけども、それはそれで置いて、1 個だけ副座長にお聞きしたいんですけども、今ご提案があった、例えば DX が進んで保健センターを使いましたというのは、大三さんがおっしゃりたいのは、多分そのコスト削減の観点からも執務スペースが減らせるとか、6 階建てが 5 階建てになるとか、そういうことも含めての意味合い言ってるんだと思うんですけども、繰り返し聴くんですけど、フロアが減る、5 階が 4 階になるとか、そういったことを考えた場合は実施設計の中でそれは変更できるんですか、それとも実施設計ではもうそこは変更できないから、もう 1 回基本設計に戻るとか、そこら辺まで行っちゃうのか、そこはお伺いしたいと思います。

◎五十嵐座長 担当部長。

◎藤本副座長 設計の関係でどこまでが修正で、どこまでが再設計なのかっていうところで、冒頭、免震とか駐車場のところがありました。こちらの方もどこかできちんと説明を部局の方からしていくべきだというふうに考えているんですけども、多少の面積の縮小だとか、構造に関係ない部分であれば、設計の修正ですむっていうふうに考えています。ただし、大幅な面積の縮小になると、これは構造も変えたいうで再設計が必要になるというふうに考えています。なので例えば免震システムのところで両方免震にするかっていうところであれば、大幅な面積の増減というところではなくて、免震と建物をつなぐ部分の修正ということになって、基本的なフロアというところは変更はございませんので、あくまでも設計の修正の中でできるものというふうに考えています。その他、駐車場についても基本的には、これも担当課長が説明を今日の特別委員会の方でしたんですけども、その中で構造に影響しない部分であれば、ある程度は修正の範囲というふうに考えています。なので、清水議員の方から今質問ありました大幅な面積の修正ということになれば、再設計という部分になりますので、基本設計のところに戻るといふような考えと担当としては思っています。

◎五十嵐座長 はい、渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 毎回同じこと言わなきゃいけないの面倒くさいんですけど、我々今この場に何で座っているか、もう一回言いますね。我々が今なぜこの場にこの協議会の場にこうやって座っているかっていうと、3 月 16 日に市長の方から設計や建設時期の大胆な見直しも含めて議論させてくれというので、この場に座っております。大胆な見直しでございますね。なので「大胆な」がどこまでいくか分かりませんが、

少なくとも基本設計まで戻るか戻らないかっていう前提条件は何も付いておりませんでした。単に設計を大胆にっていう話しだったんで。それから見ていろいろ議論はどこまででどうするかっていうのは、それぞれの考え方あるかもしれませんが、少なくともこの協議会の設置の大前提ということは毎回言いますけど、毎回同じこと言うのは嫌ですけど大事なことなので、ということなのです。

しかも私がさっき言った話っていうのは、実はこれまでにいろんな庁舎問題にも視察して来たときでもこういったことがあったんですね、千葉県でしたよね。千葉県内のある自治体で実施設計も終わってたのに、実施設計の段階と言うべきなのかな、フロア1つ、何階だったかな、6階を5階にしたのかな、ワンフロアも下げちゃったんですね、思いっきり面積減らして。こういうこともやってたりする事例もあるし、先般も八千代市の事例を申し上げたかと思うんです。八千代市でも大幅に床面積カット、こういった社会経済状況に鑑みてということなどで、設計の見直しということでは、その他の自治体の事例においても、大幅な床面積の縮減、ワンフロア減るとか、こういうことはもう事例があるので、これまでいろいろ見てきた中でも。

私は少なくとも大胆な見直しという口幅ったいお話しから始まっている協議会なんで、どうすればコストが下がるかということについて、いろんなことを述べているわけです。あとさっきの保健センターの件でも、DXがあるからさらにやりやすくなっているんですが、あえてさっき西東京市の事例をあげたのは、DXがない段階でもそうやってお金もないと、すぐ建てるお金もない中で、2つの庁舎を回しながらいできてるわけですよ。ようやくここに来てでしょう、これだけの年数経ってやっと今度は旧田無庁舎のところになるんですかね、という話しがようやくここに出てきているというような状況があって、そうやって各自治体、工夫してきているわけなんですね。なので、この協議会の役割というのは、どこまでどういう工夫ができるか不可能なことはできませんよ。不可能なことはできないけれど、可能なこと、やる気になればできることということは、腹藏なく議論をすればというふうに思っていて、なので私は今から考えますというのが嫌いなので、さっき具体的に保健センターの床面積は福祉会館の方に移転したら空くんですから、空いたものどうするんですかと、空き家にするんですかと、そうじゃないでしょ、活用しましょうよと。活用の事例としてはさっき言ったとおり、DXがあろうがなかろうがですけども、少なくともDXでさらにやりやすくなりますが、もう一つのランチの庁舎として活用すれば、これから一定の段階から小金井の人口減っていくわけですよ。人口も減れば将来の床面積っていうのも必要面積は今よりどんどん少なくなると思うんですよ。となると、しばらくの間保健センターのところを使っておいて、そこを使って、まだ耐用年数相当ありますから、20年ぐらいじゃないかな耐用年数、その間に人口も一定のところ整理される、必要な床面積も整理されれば、もし面積が思いっきり縮減した庁舎を建てておけば、その中で全部収まるぐらいになっちゃうと。そうすれば大規模な修繕の費用も床面積少ないからその分減る。それから当然のことながら維持管理費ですよ。これも床面積とだいたい比例するから掃除のお金だって、それも縮減できるということで、そういう部分がメリットがあると。さっき言ったデメリットがあるとしたら、民間の建物を借りると賃料を払うからデメリットがあるんだけど、保健センターに関してはその発生はないということになるので、前向きに検討してみる価値はあるのではないのでしょうか。3月16日の市長のご発言があったので、私もいろいろとそういったコストカットに資する話し

に関しては、まさに大胆な案、僕は今の保健センターの案は実は大胆なんだと思ってなくて、誰もがすぐ考えつく案だと思っているんですが、空き家にしたらもったいないからっていうことをちゃんと前向きに議論すべき場なのじゃないかなと、この場でと思っているんです。ただ、他にもあるかもしれませんよね、コストカットの案。だから、お互いにそれを出し合ったらどうかというところで、コストカットの案をきちんと建設的に出し合う場なのではないかと思っております。

◎五十嵐座長 はい、斎藤さん。

◎斎藤議員 今回の部長の答弁はどういう作業があるかということだけの話で、だからあれは嫌だ、これは嫌だとは私には聞こえてこなかったんですけども、私はこの庁舎、不本意ながら今のままいくべきだという立場ですけども、なぜここに座っているかという、他の意見もあるから、ある程度妥協しなければいけないというところもあって、ここに座っているわけです。渡辺さんが言ったのは大胆な見直しというものを含めてということであれば、例えばこの協議会では、大胆な、もう少し具体的に言いませんかね。例えば、今の保管倉庫のスペースから保健センターの話になったんですけど、保健センターの機能が福祉会館に入るから、それだけ空くだろうということで、どの機能がいけるんだからこれだけの面積が減らせるだろうと、こういう形になるだろうと、そこまで提案していただかないと、私なんかはなかなかはいそうですねって言えないんですよ。サテライト施設を作れという、それは全く別の話であって、だったら別のことも考えなきゃいけないという、大きくなり過ぎてしまうので、あくまでも今の現設計の中からこうすればこの分が削れるだろうと、安くなるだろうという提案にしていきたいんですね。

それから人口の件なんですけれども、今渡辺さんは小金井市の人口が減っていくという前提の話をしました。私はそれはやりたくないですね。あることに関してはね、例えば保育園に関しては子どもたちが減っていく前提で物事は考えるのか考えないのかということもあるし、小金井市の人口は減っていくのか減っていかないのかというそれぞれ考え方があって思うんですよ。私は減っていくという前提で物事を考えたくないということですから、今の人口で物事を考えていきたいと。であれば、同じ小金井市議会ですから、別のところも、同じ人口で人口が増えるとか減るとかあまり考えずに、今の人口規模の中でどうするかという議論にしないと、かたや人口が減るから面積減らせると。私は人口は減る前提で物事を考えないから減らせないということで、平行線になってしまうんですよ。その辺の認識というか、条件を一致させないと多分何を言っても平行線、交わらないというふうに思います。

◎五十嵐座長 渡辺さんは根本的な DX の可能性から話し出して、そして文書の保管みたいな具体的などこまでいろいろ幅広くおっしゃったような気がしますが、斎藤さんは根本からってというのはなかなか難しいというふうにおっしゃったのかなと思ってまして、この会そのものは意見交換というのも大きい意味があるので、誰かが言ったことに対してそこまでは難しいんじゃないか、こういうことなら考えられ、この範囲なら考えるんじゃないかっていうことも含めて、それぞれの意見を、相手をあまり批判的にするんじゃないかって、自分の意見を出していくというふうな場にしていただきたいというふうに思いますので、そのようにまた受け止めてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。古畑さんすみません、お待たせしました。

◎古畑議員 小林さんの方から DX というのは庁舎問題に関して直接障壁になってないんじゃないかっていうニュアンスだったかと思うんですけども、違うかもしれないですけど、私も直接 DX を持ち出そうとしているわけじゃないです。DX の推進が一番の契機なんじゃないかなというふうに思ったんです。ですから、本当にわずかな歩みかもしれないですけども、文書管理システムの構築ですとか、いろんなところで DX って言えば、進んでいることなのかなと思いますので、もう一度おさらいなんですけど、デジタルトランスフォーメーションについて自治体に取り組む施策っていうことで、6 つ総務省があげてるんですね。1 つは自治体の情報システムの標準化と共通化。2 つ目がマイナンバーカードの普及促進。多分国としては、この 2 つを一番柱にやりたいと思うんですね。で、その次のあとの 4 つっていうのが、マクロ的なやり方になってくると思うんです。行政手続のオンライン化、AI、RPA の利用促進。RPA というのは、ルーティンのロボットのようなやつですね。あとテレワークの推進、セキュリティ対策という。セキュリティ対策も、いろいろな外部のあれで大変重要視されているところですね。そういうところで DX っていうのがいろんな様々なもので、一つの信念に基づく理念的な考えだと思うんですよね。それが DX、DX ってどこを捉えて DX っていうのか独り歩きしちゃってる部分があったと思うんです。私が DX って、私も安易に使ってしまったのかもしれないんですけど、私としては日曜議会でも言ったけれども、業務室の効率化だとか、そういうオンライン化によるペーパーレス化っていうことを DX というで捉えたわけなんです。前回私、前島課長に資料要求したんですね。現庁舎の延床面積と、1 人当たりの執務スペースと、新しい庁舎に入るべく専有面積、什器の専有面積を、今まで出ているかもしれませんが、分かりやすい一表で提出してくださいっていうことを申し上げたんですけども、事前に前島さんと話しをしまして、前回の庁舎マネジメントの特別委員会でも、ずいぶん議論になり答弁もいただきましたけれども、目標としては 7 割削減という、そういうことを目標にしているので、文書管理システムの先進事例である豊島区なんかは、総務課長の話しによりますと、40%の執務スペースの削減になっていると。これはペーパーレスの方か、ペーパーレスが 40%削減になっている。そういう先例があって、そういうことであれば、私がそういう数字を出してもらって、いわゆる DX が延床面積の削減になるかなあっていうふうに思ったんですけど、私が考えるようなことは事務局がもうやって、ペーパーレス化ということで、もう既に始まっているんで、じゃこれはまたの機会にしましょうって言って、取り下げた経緯があるんです。ですので、自治体 DX っていうのはもう今既に始まっている具体的な取組の前に何かそういう考え方っていうんですかね、市としての信念、フィロソフィーみたいな部分っていうところの本当のやる気度っていうか、先ほど白井さん言ってたけれども、そういうところから DX っていう言葉を捉えていった方がよいのかなと思って、半ば私も DX っていうことは安易に取り上げるのは、もうちょっと具体的な行政手続のオンライン化だとか、テレワークの推進とか、そういう言い方に改めていこうかなと思ってます。そういうわけで、DX の推進イコール庁舎問題への乗り越えなければいけない課題という捉え方ではありませんので、そのところは報告をいたします。

◎五十嵐座長 古畑さんは会派の意見のところでも DX のことを書いていらっしやったので、今のお話していただくんですね。はい、わかりました。はい。渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 DXに関して、これは私よりも行政の当事者の方々の方が詳しいと思うんですが、DXが進んでいくとどうなっていくのか。さっきの白井さんからもあった渋谷区さんは7年ぐらい前から誰も来ない庁舎と、極端な言い方ですけど、要するに役所に来なくてもいいです、全ての用が足りる環境を整えますよということで、7年前から取組がスタートしているのが渋谷区さんですよ。今考えたのは、現在の小金井市の庁舎の設計の特に待合のところですね。執務スペースじゃなくて、待合、市民の人が相談に来てそこに座って待機しているとか、申請して書類ができてくるまでの間座っているスペースなんですね。この待合の面積っていうのはトータルでどのぐらいの面積あるかっていうことが一つと、あとはその面積のそれだけそれが必要だという根拠っていうのは、これはDXみたいな考え方はまったく織り込まないで設定されているのか。つまり、従来型の行政のやり方で、繁忙期なんかも含めると、これぐらいの椅子を並べとかなきゃまずいよっていう発想で設定している面積なのか。そうじゃないと、もうDXみたいなものも織り込んで、あんまり人は来ないだろうと、役所にはもう来ない、あるいはコンビニとかでもらってくるだろうと、ある程度そういうことを見込んで、座席の数を設定したのか、その辺りはどういう前提の設定になっているのでしょうか。誰も来ないというのは極端な言い方で、インターネットやってない人は仕方ないから、めんどくさいから役所に来て手続とかするわけですけど、今後のDXの進展とかを考えて、あるいは今後のと言うまでもなく、そういったもう既にコンビニ交付とかもいろいろ始まったりしているよう中であったり、あとはメールで昨日も小金井市内のある課に私がメールを送ったら、メールであることを質問したら、すぐにその場で即日メールで回答いただけるような、こういう時代ですよ。役所に行く必要もないし、いちいち課長を呼び出す必要もないということですね。大変ありがたいと思っただんです。そういう時代になっていくってことなんですよ。今思ったのが、DXで言うと、待合のスペースなどに関しても相当な面積取っているわけですよ、庁舎の中で。どういう考え方で座席の数とか割り出したのか、その辺りの経過と、数字的なことも含めてきちんと教えていただきたいし、もしここですぐ分からなければ、次回辺りに向けて、こういう考え方で整理されているってことを資料などで出していただけないだろうかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 すみません、次回にまわさせていただきます。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 具体的に言うと、さっき言いましたように、DXは業務改善、業務変革ですから、今待合スペースの話が大三さんからありましたが、市民課の窓口も大きく変わると思うんですよ。デジタル申請が当たり前になるとなると人も来ないし、要するに今の市民課窓口委託してるじゃないですか、ああいう雑多な空間と人がたくさんいて、それをすぐ対応しないといけないっていうような、ああいう煩雑なスペースっていうのもいらなくなるとは言いませんけども、やっぱり変わっていくと思うんですよ。そういったことってなんか想定されてこの間、DXが叫ばれ始めてもう2年ぐらい経ちますけども、なんかそういうのって想定されているのか。今もし答弁が難しければ、なんかそういうモデルみたいなものとか、なんかそういうのが総務省とか研究機関とかいろいろ示されているものがあったりもすると思うんですよ。もし

今なんか具体的に答弁ができないんだったら、そういうのも資料として検討いただけないかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 次回調整させていただいて、併せて提出するような形を取りたいと思います。

◎五十嵐座長 片山さん。

◎片山議員 私は最初整理して欲しいというふうなことを言ったんですが、それは多分却下されたのかなと思っているので、もうどんどん DX ということで、話しが進んでいるのかなと思っているんですが、それでよろしいですかね。先ほどからそういった誰も来ない庁舎を目指そうみたいな話しで進めますけど、私は決してそんなことは思ってないですから、はっきり言って。それでは市役所行ってるのはどういうふうな目的にあるのかということ、全然ここでは共有されていないと私は思っています。デジタルなどに対応できない市民の方がほとんどだと私は思ってますから、何かあったら市役所に頼りたいというところをきちんと体现できるような役所であるべきだと思っておりますので。はっきり言って渋谷区とか、生活保護行政非常に悪いですよ。全然対応悪いですから、野宿者排除しますしね。そういったところを参考にしないでいただきたいなということだけは一言述べておきたいと思います。

◎五十嵐座長 沖浦さん。

◎沖浦議員 DX の考え方というか、今片山さんからもそういう話しがあって、僕ちょっと違う観点かもしれないんですけども、庁舎に DX うんぬんって考えるときに、DX って何ですかって言って、最終的には僕は市民の利便性の向上だと思っているんですけども、その中身は、さっき白井さんも言ってるような業務改善、業務フローも根底から変えましょうと。それで例えばできた時間はもしかしたら残業代が減るかもしれないし、余った時間は僕は窓口に出たり、地域に出たり、僕はそういうことをするべきだと、職員さんは。そういうふうなことがこれからも必要になると思ってるんですよ。この前も申し上げましたけれども、全部皆さんがオンラインで全部対応できるかっていうとなかなか違うよね。今日の特別委員会でも古畑さんがおっしゃってたんですけども、そういう方々が実際に庁舎に来て、そこのパソコンで教えてもらいながら打つっていうのもあるよねと。そうすれば、人が全く来ない、そういう時代ってというのは、もしかしたらいつしかそういうことになっていくかもしれないですけども、この 10 年、20 年でどこまで変わりますかっていうのがなかなか分からないっていうのもあるんですよ。ここでどうするのっていうのは僕はある程度のもんっていうのは必要なんじゃないかなって思っているんですけども、待合室のスペースうんぬんっていうそういうお話しも一考の余地があるかなということで聞いておきまして、だから基本的には DX が庁舎の床面積をどこまでどうするのっていうところには、多分なかなか結論は至れないんじゃないかなっていうのが、今の時点で感想としては思っています。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 一応弁解しておきますと、私は誰も行かない庁舎じゃなくて、行かなくてもいい庁舎っていう話しをしたんですね。全ての人が 100%、例えばデジタルで対応できると思ってなくて、ただ選択できる状況になると。対応できる人は行かなくてもよいっていう、そういうサービス設計になっていくっていう未来が見えてますので。ただそうじゃない方に対する丁寧な対応というのは、今沖浦さんおっしゃったよう

に、人をもっと付けるとか、対応を厚くするとか、質を高くするということによってできるって思っておりますので、それも業務変革だと思うんですね。だからそれこそが DX の世界だと思ってます。だからすべてに対してコスト縮減とか、スペースの縮減にすべてイコールつながるわけじゃないと思うんですけども、それができる部分とサービスの質を上げるっていう両方のメリットっていうのがあるかと思っておりますので、勘違いしないようにお願いします。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 私も DX については非常に興味があるところなんですけれども、ここで今どう語っていくのか議論していくのかということに疑問を持っているということでもあります。ずっと言ってきたんですけど、建設時期が 3 年、5 年と例えば伸びていくのであれば、DX の分野に関しては日進月歩ですから、今定められている計画ではやはり不十分であって、ブラッシュアップする、最新のものを全部新しいことを全部取り入れろということではなくて、これが時代にマッチしているかっていう確認は必要だと思います。ただ DX を入れていくっていうことは、基本的には全体のコストとしては上がっていく話なので、その辺の考慮も必要だと思います。大きなところで、テレワーク的なことってのは、大きなインパクトがあると思います。方針を決めるとすれば、執務スペースを全職員の 9 割のスペースでいくんだとか、そうやって決めることが全体の設計変更になってくると思うんですけど、その分野って基本設計のところに入るかなと思っていて、この座談会で決めていいのか、それはもう一回行政の答えを持って来るまで、待たなきゃいけない話なのかっていうそういうことだと思うんですけど、進め方としては、DX の話しを進めていくとなると、大きな話しになるとすると、ここでタラレバの話しをずっと続けるべきなのかどうなのか、もう少し後半の話しでもいいのかなっていう気がするんですけども、どうなんでしょうか。

◎五十嵐座長 担当部長。

◎藤本副座長 現在の考え方だけ私の方から話します。DX の推進ということにつきましては、将来にわたって継続して取り組んでいく視点ですので、現状から着手し可能なところは進め、庁内ネットワークの整備やペーパーレスの推進など、効率かつ円滑に新庁舎へ移転し、業務開始できるように準備を進めていく必要がございます。また DX を推進することによりまして、新たな市民サービス、利便性や効率的な行政運営を進めることで将来的に生み出されるスペースがあるならば、例えば市民のご意見を伺いながら、その活用方法を検討するとか、相談ブースや受付事務の充実のためのスペースに転用するとか、事務の効率化を図るために WEB 会議対応、執務室内の集中スペースや作業スペースなどのバックヤードの充実などに必要に応じて転用することも考えられます。現時点で DX の準備が即座に全体的なスペースの削減に直結できるというふうに明確に想定できるようなことでは今ないので、難しいとは考えているんですけども、今後に当たっても推進していくのは当然ですし、また先ほどからもお話しあったように、デジタルに不慣れた市民の方には、その分丁寧な、相談できるようなスペースも必要だと考えていますので、そういうことにその空いたスペースというのを活かしていきたいなというふうに考えているのが現状です。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 今のような話しは、テーマが変わったときに冒頭にお伺いする必要あるかなと思っていて、文章まで用意されているから。今の話しは大胆に設計変更も視野に入れて検討するって言ってこの場だけど

も、DXによって延床面積の見直しするなどの方針は今ありませんっていうご発言だったんですけど、そうするとこれは何の議論なんです。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 絶句するんですよね、はっきり申し上げて。さっき私冒頭に読み上げたでしょ。床面積などに関しても日本総研さんみたいなところで細かな試算まで出てるんですよ、いろんなものが。DXやっていると、こういうところでこういうふうに効能がありますよね、こういう縮減効果がありますよね、この部分はコストアップになる部分とコストダウンなる部分の入りくりまで全部分析されてんですよ。DXで床面積に影響ないみたいな前提で庁舎建設の設計を進めてきたから、こんななっちゃったんじゃないの。もう一回言うよ、こうなっちゃったんだから。だからもうちょっと真面目にやった方がよいと思うよ、俺ね。今みたいなお話しだったら議論にならないので、はっきり言って。可能性をきちんと追求していく必要があるんじゃないですかね。

◎五十嵐座長 私も途中で行政の考えを聞きたいなと思ったんですけど、聞くとその後質疑がしにくくなるような気がして、聞こうか聞くまいかって悩んだ感じなんですけど、確かに今の設計を大きく面積を減らすために難しいというふうに思っているんだろうなというのは想像はつきました。ただ、議員の側の期待としては少しでも進めて欲しいというのはあると思うので、これは議員の声を聞いてもらって、どこまでできるかっていうのは真剣に検討してもらいたいなと正直言っています。少しでも進められるようなことを何とか模索してもらいたいというふうに思いますけど。はい、担当部長。

◎藤本副座長 その前に ICT を活用して、文章の削減だとか、この間の執務環境調査で出された面積を減らしてきたという経過もお話する中で、これで DX を入れてどのぐらい減るのかということ、なかなかそれが見えづらい中で、今の考えとしてはやはりそういう減ったスペースも有効活用していきたいというふうなもので、答えさせていただいたんですけども、やはりこの協議会で出されたご意見だとかも踏まえながら、部局としても面積の削減だとかっていうところにも検討はしていきたいというふうに考えているところです。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 DX だとか、文書の削減は今日特別委員会でも議論になって 3 割まで減らすことで 800 ㎡ぐらい面積は削減できたということだと思うんですよね。確かそういう報告でしたよね、課長。3 割まで削減をすることで、設計としては 4,700 ㎡だったのが 3,900 まで延床面積を減らすことができたみたいな話をされたわけですよ。だからそこは、さっき冒頭でもそう言われましたよね。文書管理ではもうそれ以上減らすことは難しいのかどうかっていうことが一つと、ICT で今回出す中期財政計画に示されている財政事業費で言えば支援業務が 1 億円と、それから新システム導入費で 979,558,000 円が計上されているんですよね。これの中身っていうのは、私は少なくとも知らなくてブランクがあるので、皆さんはご存知なのかもしれないんですけど、どういう事業費でこの 9 億 7958 万になっているのか、この ICT 関連のシステム導入っていうのは、何をどこまで、どういうふうに導入しての計画なのかっていうことを、資料としても、もしあればここですっておっしゃっていただければいいんですが、資料として提出をしていただければと。現状がどこまでの計画でこの関連事業費になっているのかっていうことを把握しないと、議論もなか

なか難しいのかなと思っっているところです。今日は ICT の情報システム担当はいらっしやらないね、ここに。文書管理の担当もいらっしやらないので、さっき小林さんも言われたんだけど、この程度にして、次回もう一回全体的なものを把握したうえで議論しないと、担当がいる中で議論しないと、庁舎担当だけではなんか答えられないんじゃないかなと思っっているんで、その辺り整理した方がいいんじゃないかと。

◎五十嵐座長 はい、片山さん。

◎片山議員 一番最初に私が多分言ったんですけども、今日の委員会の議論を聞いていただいて、そこで把握していただきたいと私は思います。そこで総務課長も一定文書管理システムのことについても説明していますし、今の状況についてはかなり詳しい説明をされてましたんで、そちらを確認していただいてからの方がいいかなと私は思います。

◎五十嵐座長 ICT の資料請求のことはどうですか。はい、担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 積算してもらってまとめて資料で出してると思いますので、こちらの方で調べさせていただいて出せるようだったら出していきたいというふうに思います。

◎五十嵐座長 はい、清水さん。

◎清水議員 私の思い違いだったら言って欲しいんですけど、まず最初大三さんが先ほど 2 回目の発言をされてたじゃないですか。この場の議論を別にとめるつもりもないんですけども、どっかで線を引いた方がいいんじゃないかっていうことは申し上げただけです。そこは言うておきたいなと思いました。

あと東京都の人口の未来調査を見てみると、東京都が調べたやつだと、2040 年で今の小金井市の人口があまり変わってないなというデータもあったので、一応お伝えだけしておきたいなと思いました。

あと庁舎建設の議論なんですけど、なんかいいんですかねこの流れ。違ったら言って欲しいんですけど、DX、ICT も大事なんですけど、私も冒頭申し上げているんですけど、DX と庁舎建設って私は本来リンクしないものだと思ってるんですね。結果としてスペースが空くとか、結果としてスペースが減るっていうのは分かるんですけど、白井さんとか小林さんも言っていたんですけど、まだ方針がはっきり出されてない中で議論しても、議論する場だからいいんですけど、それを踏まえて市長をはじめ部局の皆さんがどういうものを提案するかっていうのは、この場ですから議論自体は否定はしないんですけど、なんかこの流れでいいのかなっていう不安があったんですけど、違ったら違うと言って欲しいです。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 すみません、私が提案したことを整理していただきたいと。また次の新しい意見が出て、またそれについてまた関連が出てみたいね、全然まとまってないんですよ、率直に言って。それで私もう一つ聞いているのは、3 割削減することで執務スペースが 4,700 がいくらになったんでしたっけ、そこをもう一回確認させていただけないかと思っますので。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 まず文書を減らして 3,900 っていう提案があったわけではなくて、ユニバーサルレイアウトをすることで 7 割減ったうえで、さらにユニバーサルレイアウトにすることでその隙間の有効活用ができるっていうことといただいているので、7 割というのは最初から変わってないということで、ご理解いただければと思っますんですけども。

執務環境調査を行って、文書量を減らしたわけですが、それによると7割減ったところで執務スペースが4,792㎡という想定で始まっています。基本設計のときに設計者から、技術提案書でも出ているのですが、ユニバーサルレイアウトなどの提案によって、島型のところから一つ長い机を並べるということで、その間のスペースが不要になったりするので、3,900㎡という提案があったと。実施設計の最後のまとめの段階では、皆さんにはお出ししている資料ではないのですが、積算の方では執務スペースが3,713.58という形に実施設計の提出物ではなっているところです。

◎五十嵐座長 進め方ということにもなるのですが、たとえばICT担当の情報システム課とかDX担当とか文書担当の総務課とか、そういう意味ではこの担当者はいない中でやっているのですが、そもそもが庁舎担当がそれをどのように反映させていくお考えかどうかを確認しないとなかなか細かい話しにはなりにくいかとこのところで、具体的な担当者は特に考えていなくて、まずは庁舎という視点から思って質疑をしてきたというのが今日の流れなんですけれども、ただ7割削減という言い方でも、7割削減全然されていないのに、設計は7割削減でやってきたという流れがある中で、削減してもらわないと困るというところにDXが機能を発揮するんじゃないということで話してきたというところがあって、DXと庁舎建設と関係ないというわけでもないのかなと。庁舎ということから見てもDXの中の機能の一部は大いに関係するし、渡辺さんみたいな根本的な考え方もあることはあるんですが、多分なかなか小金井の今の現状を、庁舎が分散でも全然行かなくても大丈夫みたいな形までには、そこまではいかないだろうなって思いはあるんですが、話しを聞きながら、皆さんと意見交換をしながら、そこは詰めていった方がよいのかなと思って、聞いていたり発言をしていただきたいというふうに思ってやってきたというのが、今までのあれです。だからもうちょっと細かい話しを担当から一定聞きたいというのであれば、資料の提出ありましたので、その資料をもとにして、次回また話しをするというのは構わないと思っております。私たちがDXの話しをどれだけできるかっていうのは確かにあって、ただあまり設計、床面積は変わりませんと言われちゃうと、そもそもの意見交換の意味もないような気がするので、少しでも進めてもらわなきゃ困るので、そういう意味で皆さんの声を行政にも言っていただきたいという思いはあるので、そこら辺はすぐそうなるというわけではないけれども、考えてもらいたいという意味で意見を言ってもらいたいというふうには私は思っていますので、よろしくお願いします。森戸さん。

◎森戸議員 座長の思いは分かります。ただ、この庁舎建設計画に計上されている9億7000万の内容が私よく分からなくて、どう発言するかなというふうに思っていて、今日この話しをするとしたらきちっと資料も手元に置いて、どこまでを私たちが求めて行くのか、理想を言えば、すごい高い理想があるんですけど、しかし求めれば求めるほど白井さんがおっしゃるように費用はかかるわけですよ、それはね。だからその辺りも含めてどうするのかで、文書管理を7割削減するにしたって、相当な費用がかかってくる可能性もあるということもあるわけですから、その費用はこの中には入ってるんですかね、文書管理を7割削減するってことがね。入ってるかどうかということも含めて確認はしたいんですけど。私は必要な物はある程度費用はつけなきゃいけないと思ってます。それは絶対ダメだとは言いませんけど、そういうことが実際に数字で見えてない中で、議論は今日すごいにくかったというのが率直なところなので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 率直なところ、それをやるとこれだけ削減するんで、こう設計を変えるべきだということまで行っていただくと、私のような頭でも分かるんで、是非今後をお願いします。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 課長、そこは分けて説明してください。ICTのやつ一部入っていたよね。庁舎建設のハード系の部分でしょ、ソフト系のところまで入っていないよね、そこはきちんと仕分けて。だって庁舎建設やっていないところだってDXやるんだから。そんなもの庁舎建設費用に含めたらおかしいんだから。ただ庁舎建設でハードを入れるんなら、庁舎建設の間接費用にはなる。そこは説明してもらった方がいいと思いますよ。

◎五十嵐座長 企画政策課主査。

◎福井企画政策課主査 ICTの経費に関してなんですが、主にハード系のものを計上しております、中期財政計画や財源計画の方ですね。あと森戸議員の言われた文書管理システムの関係ですが、これは庁舎の財源計画の中には含んでないものになります。

◎五十嵐座長 資料に関しては。企画政策課主査。

◎福井企画政策課主査 財源計画の中のICT整備費9億7千万の内訳ということですが、その辺出せるかどうか調整のうえ検討させていただきたいと思います。

◎五十嵐座長 いずれにしても資料が来てから、もう少し詰めるというか、話しをするということで整理させていただいてよろしいですか。資料が出た後にもう少し進めるということにしたいと思います、よろしいですね。はい、小林さん。

◎小林議員 一言ですけど。今のって、実施設計の裏付資料すごい厚いのいっぱいあるわけですよ。それをコピーするやり方なのか、いつまでどこに置いてあるから見に来てくださいよという話しなのか、その辺はよく考えていただいてよいかと思いますので、いっようにしていただければと思います。

ということと、この会議は建設着工の成案を得る会議ですよ。だから中身の、文書が5割しか減らなかつたら引越するとき荷物が余るとか、そういうレベルの話しはここですべき話しではないし、ICTのソフトの話しというのは庁舎建設とイコールではないということですね。建設が先に延びたら、今の状態の中でもやらなきゃいけないことだから、その辺の議論は今後分けながら今後もやっていっていただきたい。

◎五十嵐座長 できるだけ庁舎建設ということに直接関係するところの話しにしていくということで、ご協力をお願いいたします。それでは今日時点でのDX、ICT対策についてはここで終了して保留としたいと思いますか、よろしいでしょうか。

あと30分ありますので、地下駐車場中止というご意見に対する意見交換を少しだけでもしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。先ほども少し出ましたけれども、今の地下駐車場をなくしていくこと自体は設計の修正で可能だということが報告はされていたと思います。それが一つの共通認識ということで、それを踏まえて、たしか費用的なことも4億くらいというのは出ていたかと思いましたが、それでよろしかったかどうか確認をしたいと思います。担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 その前に、仮に地下駐車場を中止した場合はコストダウンはあるかと思いますが、その代替措置として、現設計で言えば例えば立体駐車場の、例えばですよ、立体駐車場の建設ですとか、また敷地内に設けられなければ、敷地外に駐車場を借りるといような代替措置も必要になりますので、一定のコストダウンがあったにしても、そういったことまでまた別の観点から見ていかなければいけないという部分もあるということは前提としてお伝えさせていただきます。

コストについては数億円という形かなあと考えております。前にCM事業者の方に聞いたときに、総免震で3億から4億かかるという話があった中で、地下駐車場をなくしても、その相殺には至らないだろうという話しからすれば、数億の金額のコストダウンにはなるのかなあといいところですが、繰り返しますが、代替の措置が必要になりますので、そこをどうするのかというのがまた別の話しとしてあるということでございます。

◎五十嵐座長 ということを前提に意見交換していきたいと思います。清水さん。

◎清水議員 今課長がお話ししていたことというのは、地下駐をなくして4億ほど減る、総免震にすると3億から4億かかる、それで相殺されて、相殺できないだろう。コスト削減になる、ならないだろう。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 今のは総免震と合わせてお話しをさせていただいて、総免震の金額から想定すると、地下駐車場をなくしただけであれば、2、3、4億円くらいになるのかなあといい想像をしたという話しです。相殺できないだろうという話しからそういうことを割り出したということですよ。

◎五十嵐座長 はい、小林さん。

◎小林議員 条件の確認だけさせてください。立体駐車場は44台分でしたっけ、立体駐車場を作るといくらくらいするのかということと、建てるのとすると防災の広場みたいとなる駐車場の上に駐車場を建てたらまたお金がかかるでしょうけど、それを作る予定なのか、広場を今広げようという話しをしている中で、広場の上に建てるのか、それとも建物を予定しているものをどかすということになると、設計に影響ありませんって言ったけど、思いっきり設計に影響のある話しなんですけど、そこまで含めてお話しいただいでよろしいですか。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 立体駐車場について具体的に検討しているわけではございません。金額的にまず地下駐車場をやめたらコストが浮くだろうという話しまでは聞いておりますが、その代替措置についてどうするかということまでは具体的に考えておりませんが、敷地内で考えるとすれば、今の外構部分、駐車場の部分ですとかそういったところに立体駐車場という可能性はありますけれども、具体的には考えていないというところで、もしそういうふうなお話しになっていけば詰めていかなければならないという段階でございます。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 地下駐車場の件なんですけど、今さっき課長からもあったんですけど、現状のL字型の設計を前提として地下駐車場をなくすと、さらにいろいろな課題が出てくると思います。もともとは地下駐車場の話しというのは、地下に駐車場を持っていかないと地上の広場スペースがどうしても貧弱でなんと

かならないかという議論がいろいろあった中から、一定台数地下に入れて、地上にある程度オープンスペースを取りましょうというような、いろんな議論を経てきた中での話しでしたよね、いろんな議論の過程で言うよね。最初から地下駐車場前提ではなかったですよ、議論の過程から言うよね。なんで地下駐車場の話しが出たかっていうと、あまりにも地上のオープンスペースが取れないから、地下に車を持っていかない。いろいろな議論を経て今のようになっているかと思うんですが、さっき言ったとおり、単純に地下の駐車場をなくすと、今のL字型の設計を前提にすると、駐車場を立体にしたりとか、例えばお隣の大きなマンションのところで余っている駐車場を借りるとか、そういう追加の経費がかかるようなお話しになります。そういうものを発生させないで地下駐車場をやめられる案は、ちょっと手前味噌ですが、我々が言っている建物全体をI字型にして北側に寄せて地下駐車場をなくせば、建物の北側に現在市長の方で計画されている設計と同等の台数は平地で確保できます。あげくに南側には3,000㎡のオープンスペースつまり広場が確保できるわけなんですね。私は地下駐車場をなくす話しっていうのは、清掃関連施設を除却して、建物を北にずらして、南に広場、北に駐車場と、こういう根本的なところを整理したところで可能になってくるというか、道筋がついてくる話しなのかなというふうにも今の段階では個人的にはそんな感想は持っているんで、L字型のままそれをもしなくそうとすると、かなりいろんな課題が出るだろうなど。これまでいろんな議論の経過を見ていて、そう考えているところですが、今日の段階ではあんまり固定的に言っちゃうとあれなので、今日の段階でそういう感想だけ持っていると申し述べておきます。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 確か地下駐車場って40台ぐらいを想定されてますよね。思い切って庁用車をなくすということとは想定できないんですかね、考える余地はゼロですかね。そうすると、だからいらないじゃないですか。多分かなり突飛なことを言ってると思うんですけど、そこからできることがないかというのを考えてっていうの一つ手かなと思いましたので、いかがでしょうか。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 今即答はできないんですけれども、それで台数を例えば減らして、駐車場を掘る部分を減らしてコストダウンを図るとか、そういう意味もあるかと思うんですけれども、ただ減らせるかどうかというのは今即答できないので申し訳ないです。考えの一つとしては、そういうのもあるかなと思います。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 ちょっと突飛な話しをしていると思うんですが、可能性としては考えたいな、できることはね。例えば全部減らせなくても、例えば1/3減らすことができれば、その台数分どうするっていう前向きな話しになると思うんですよ。資料としてお願いしたいのが庁用車、要するに地下駐車場にとめる車っていうのが、どういう課のどういう車かを相談があって多分想定されていると思うんですけど、今の現状、どういう車を市として保有して使っているのか、どの課が使っているのか、その使い方ですよ。それ資料にまとめてもらっていいですかね。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 白井議員と調整させていただいて、お出しできるものであればを出していきたいというふうに思っています。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 地下駐車場を私たちはやめるべきだと言っています。全体駐車場台数124台で、地上62台、臨時駐車場が23台、地下が39台ということなんですね。いっぺんに62台があそこにとまることがあるのかどうかって、私は非常に不思議に思っているところがあって、地上だけで。駐車場の台数を計算した根拠は、今日の特別委員会でもはっきりしたんですが、一つは附置義務台数、プラス庁舎の駐車場の利用状況を取って、その中で出したものなんですよ。私はずっと覚えてるんですが、庁舎の駐車場の台数を数えているときってというのは、第二地区の工事が始まっているときで、建設業者の方々が結構本庁暫定庁舎の駐車場とかとまってるんですよ、結構ね。ここは駐車場のところも駅に近いので、周りの買い物のために使うとか宮地楽器ホールを使うために使うとか、結構再開発に位置付けられている駐車場になっているので、公共施設の駐車場とはいえ、利用は庁舎のために来るといっただけではないというふうに思います。その辺りからすると、私は改めて調査をして欲しいということを今日、要望させていただきました。もう少しその辺りをよく見る必要があるかなと思っています。あと附置義務台数としては最低限何台なのかということは確認をさせていただけないでしょうか。

◎五十嵐座長 確認するのに時間がかかりそうなので、確認して次回でいいですか。森戸さん。

◎森戸議員 もう一つ。地下駐車場で、なおかつあそこは内水氾濫の問題などかあって、いろんな手立てをして駐車場には入らないようにするとはおっしゃっていたんだけど、立地的にも地下を作るのは難しいかなというのと、最近地下で化学物質が発生して中にいた作業員の方々が大変になったという話しなどもあって、そういう危険もあるのかなというのもあって、そういう意味ではなるべく地下じゃない方がいいのかなというふうにも思ったりしています。斎藤さんおっしゃているように免震にすれば、地下は掘らなきゃいけないんですよ。建物の間も空間を作らなきゃいけないということはこれも当たり前のことなので、それをやったとしても、私たちも地下は掘った方がいいのかと思っていました、当初は。免震にするんだからね、斎藤さんがおっしゃるように。だったら掘っちゃった方がいいのかと思ってたんだけど、現状のいろいろな浸水の状況なども含めて検討すると、またコスト削減の一つの方策として、地下駐車場はやめていくことなのかなと思っています。

あと自動車を減らすことは私も大賛成で、今電動自転車というのがありますからね、電動自転車というのは便利だと思つづくと思います。そういうことも含めて、CO2排出量を削減する意味でも大事なかなと思うので、是非自動車削減大賛成です。

◎五十嵐座長 坂井さん。

◎坂井議員 地下駐車場の話しになっているんですけども、地下駐車場の話しというのは免震耐震とも関わってくる話しだと私は捉えているんですよ。プロポーザルのときに与条件がいくつかあったわけですけども、その一つに免震構造を採用するときに生じる地下空間は駐車場として整備するなど、空間を有効に活用できるように創意工夫を凝らすことということが入っていたんですよ。今回例えば、地下は駐車場にしないといった場合で庁舎が免震になった場合というのは、有効に活用できるような創意工夫を凝らさな

ければいけないだなということが一つ思った、私今のところ創意工夫を凝らすようなアイデア具体的に提案できないんですけども。というのが一つ必要になってくる論点かなということのを思いました。あとコストダウンという視点でいっても、3、4億にはいかないだろう、他の検討事項もあるということのを考えると、現時点ではなくすというのは難しいのかなというのが私の現時点での考えです。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 先ほど森戸さんがおっしゃたのは、多分地下駐車場で消火設備で炭酸ガスと泡消火というのがあるんですよ。炭酸ガスというのは地下駐車場を密閉して、炭酸ガスで酸素をなくし消化するということですから、そのときに人間がいると死んじゃうんですね。その検査のときに、理由は分かりませんが、検査する人たちが中に閉じ込められて炭酸ガスで亡くなってしまったという事故なんですね。今回泡消火器といって、最近お金はかかるんですけど、泡消火器になっているので、地下でもそういう心配はないということで、ご理解いただければと思います。

それと、私は免震の地下を駐車場に利用しろという話しは絶対に言っていません。私ではありません。12名の議員の皆さんです。

◎五十嵐座長 古畑さん。

◎古畑議員 坂井さんの質問に関連なんですけど、私スカパーにいたことがあるんですけど、メディアセンターって言って、タレントさん呼んでスタジオは別にあるんですけど、東陽町にあるんですよ、それ。平成10年くらいにつくったんですか。そこは防潮堤と免震構造がセットになったところで、入社しときに見せてもらったんですね。ここにいるメンバーもあれだったら、頼んでもみようかなとずっと温めているあれなんですけど、多分地下駐車場の利用というのは、免震構造でばかにかいタイヤみたいなやつが何機か入っているんですけども、タッグ自体は人の高さくらいだったかなという程度の空間でOKなんです。多分地下空間を利用するということで、車が入るための地下空間を、車が入れるように設計したのかなと、私の想像なんですけど。もし免震のみで、何も使わないということであれば、多分人の高さぐらいの地下空間で設計できるんじゃないかなって、確証はないんですけども、そういう印象があります。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 古畑さんに関連してなんですが、確か特別委員会でどこかの免震だけの庁舎を視察に行ったんですよ。その視察に行ったときに中に入ったんですよ、地下に。身長はなかったですね、私の身長はなかったです。ちょっとかがまなきやいけないっていう状況で、そのレベルの免震構造になるんだろうと思いますので。そこに空間があって、例えば防災倉庫で何か物を入れることができるかどうか分かんないけど、そんなに高くはなかったということで、その認識は皆さんと一致させといた方がいいかなと、そんなに高くないです。

◎五十嵐座長 古畑さん。

◎古畑議員 付け加えますと、当然ながら上の重さによって、規模だとかスペックっていうのは、ばかにかいタイヤみたいなのがありますんで、そこに行かれた庁舎はどのくらいのスペックか分かんないですけど

も、私のいた東陽町すごい大きなあれだったんですね。だから 2m ぐらいですむのか、1m ぐらいですむの
かっていうことはあり得るのかなっていう意見だけ申し上げます。

◎五十嵐座長 他にございますか。はい、沖浦さん。

◎沖浦議員 坂井さんが先ほどおっしゃったのは、実際駐車場にするにはそこそこ掘らなきゃいけないって
いうような感じの話で、実際設定条件として免震構造を採用する際には、その空間は有効に利用しよ
うねっていう、そういうのがあったんで、それを踏襲するとしたら、地下駐車場にはしないだったら、
何かしら有効な案っていうのは、アイデアとしてはあってもいいんじゃないかなっていう、そういう思い
もあったのかなど。私も地下駐車場をなしにするという場合には、セットでそういう提案も何かあればい
いなあっていうのは思ってたところでございます。

◎五十嵐座長 他に。坂井さん。

◎坂井議員 私の発言を翻訳してくれた方がいたので、そういう感じなんですけれども。現実的にという
か、私の考えでは地下駐車場をなくしたとしても、何かしら確保していかなければいけないっていう課題
が出てくるということを踏まえると、現段階では地下駐車場をなくすっていうのは難しいかなというふう
に思っていると、結論としてはそういう意見ということを申し上げます。

◎五十嵐座長 駐車場に関しても、さっき資料請求というか出てますので、また改めて次回議題にしたいと
思いますので、今日は時間の関係もありますので、この程度にとどめたいと思いますがよろしいですか。
はい、そのようにさせていただきます。

今回はさっき資料がいろいろ出ました DX、ICT 対策の件と地下駐車場の件と、時間があれば次の I 字型
の簡素な建物という提案について、議題にしていければいいかなと思っておりますので、よろしくお願
いいたします。これで、第 4 回庁舎等建設建設に関する協議会を終了いたします。